

# 第4期中区地域福祉保健計画 (令和3年度～令和7年度)

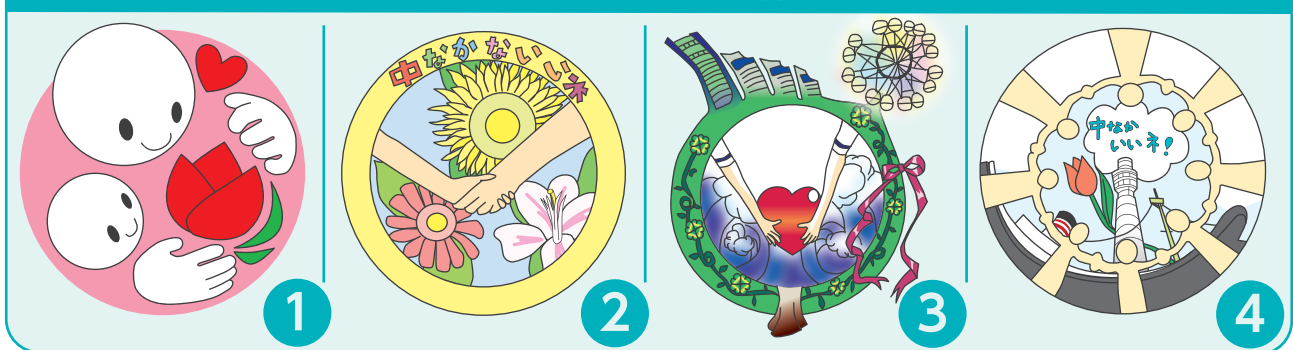
## 中なかいいネ!

### ロゴマーク・素案の区民意見募集

令和3年度から、「もっとみんなの『中なかいいネ!』」を目標に第4期中区地域福祉保健計画「中なかいいネ!」が始まります。そこで、計画のシンボルとなるロゴマークを策定します。ぜひ、この冊子をお読みいただき、次の候補作品の中から、「もっとみんなの『中なかいいネ!』」に最もふさわしいと思われるものを1つ選び、投票してください。

ロゴマーク候補作品は、中区内の障害者団体や施設及び中学生の皆様にご作成いただきました。今回ご協力いただいた皆様も「中なかいいネ!」を進める一員です。

#### ロゴマーク候補作品



#### 【選ぶポイント】

- 1 親しみやすいデザイン
- 2 「中なかいいネ!」に関する次のいずれかのキーワードが連想できるデザイン  
「みんな」「中(区)」「えん」「元気」

#### 【完成したロゴマークについて】

ロゴマークは、素案の区民意見募集結果と合わせて公表し、区役所及び関係機関等の「中なかいいネ!」関連事業の広報等で使用するほか、地域で行う「中なかいいネ!」の取組でも使用する予定です。

#### 【応募資格】

中区内に在住・在勤・在学の方  
※1人1回  
投票方法は裏面をご覧ください。



切り取り線

#### 〈中なかいいネ! ロゴマーク候補作品への投票〉



\*いずれかに○を付けてください。

#### 〈第4期計画(素案)へのご意見〉

「もっとみんなの『中なかいいネ!』」にしていくため、「地域の見守り・つながりづくり」と「まちぐるみで健康づくり」に関して、どのような取組があったら良いと思いますか。

地域の見守り・  
つながりづくり

まちぐるみで  
健康づくり

自由意見

切り取り線

# 第4期中区地域福祉保健計画 中なかいいネ！ 策定の道のり

令和元年7～8月  
中区区民意識調査

令和元年11～12月  
中区地域福祉保健計画策定に  
関するインタビュー

令和2年7月29・30日  
第1回中なかいいネ！推進会議

令和2年11月16日～12月18日  
素案の区民意見募集

令和3年2月3日  
第2回中なかいいネ！推進会議

令和3年4月～  
**第4期計画スタート**  
(中なかいいネ！発表会の開催等を予定しています)

計画へのご意見をお寄せください。

中区の各地域ケアプラザで13地区のパネルを展示しています。また、中区役所別館でロゴマーク応募作品全77点を展示しています。ぜひご覧ください！

切り取り線

郵便はがき

料金受取人払郵便

横浜港局  
承認

5290

差出有効期間  
2021年  
3月31日まで  
切手を貼らずに  
ご投函ください。

231-8790

021

横浜市中区日本大通 35

中区役所福祉保健課  
事業企画担当 行



\*当てはまるものに○を付けてください。

中区に	住んでいる ・ 働いている
年代	19歳まで・20代・30代・40代 50代・60代・70代以上
中なかいいネ！を	知っている ・ 知らない

## 【募集期間】

令和2年11月16日(月)から12月18日(金)まで

## 【提出方法】

- 1 はがき(切手不要、12月18日(金)消印有効)  
左記のはがきを切り取りご使用ください。
- 2 ファクス  
次の問い合わせ先まで送付してください。
- 3 インターネット回答  
次のアドレスまたはQRコードからアクセス  
してください。

[https://www.city.yokohama.lg.jp/naka/kurashi/fukushi\\_kaigo/chiikifukushi/fukushi-plan/](https://www.city.yokohama.lg.jp/naka/kurashi/fukushi_kaigo/chiikifukushi/fukushi-plan/)



## 【注意】

後日、いただいたご意見の概要とそれに対する本市の考え方をまとめ、中区ウェブサイトで公表します。個別の回答はいたしませんのでご了承ください。

【お問合せ・ご意見送付先】

**中区役所福祉保健課事業企画担当**

〒231-0021 横浜市中区日本大通 35

電話：045-224-8330 ファクス：045-224-8157

電子メール：na-iineplan@city.yokohama.jp

# 1. 「中なかいいネ！」ってなに？

## ① 中区地域福祉保健計画「中なかいいネ！」とは

地域の人々がお互いに支えあい助けあいながら、誰もが住み慣れた地域でいつまでも安心して暮らしていけるようなまちづくりを目指して、中区に住む人・働く人全ての人々が協力をしながら進めていく計画です。平成18年度から第1期が始まり、現在は、第3期(平成28年度～令和2年度)計画を進めています。

## ② 「地区別計画」「区全域計画」で構成された「中なかいいネ！」

「中なかいいネ！」は13の地区別計画と区全域計画から成り立っています。本冊子は、区全域計画の素案です。地区別計画は、現在各地区で検討中です。

### 地区別計画

地域が主体となり、目指すべきまちの姿や地域の様々な課題に対する取組をまとめたもの。

取り組む人：地域に住む人・働く人

### 区全域計画

区全域の共通課題及び地域では解決することが困難な課題に対する取組をまとめたもの。

取り組む人：区役所・区社会福祉協議会・地域ケアプラザと福祉・保健関係者や企業・事業所等



## ③ 第3期計画の歩みと第4期計画のこれから

### 第3期計画で進めてきたこと

人とのつながりをキーワードに、見守り力を高める**えん結び**と、まちぐるみで健康づくりを目指す**元気いっぱい**を2本の柱に掲げ取組を進めました。また、地域での活動を進めやすくするため、人財・交流・情報の3つの土台づくり(環境整備)に取り組みました。

### 一方、活動している区民の方からの声

- ・計画を知らない人が多い。
- ・一部の住民によって地域活動が支えられている。
- ・活動をしている団体は多いが、関係者以外に知られていない。
- ・困りごとに気づいて、活動し始めている人もいますが、知られていない。

そこで…

### 第4期計画では

「もっとみんなの『中なかいいネ!』」を5年後の目標にし、多様な人がいることの理解を進め、お互いに助け合うことで、暮らしやすい中区を目指します。





## 2. もっとみんなの中なかいいネ！にしませんか？ ～中区の現状～

中なかいいネ！推進会議や中区区民意識調査、グループインタビューなどを通していただいた中区に住む人・働く人のご意見から、5年後の目標「もっとみんなの『中なかいいネ!』」が生まれました。

### 1 中なかいいネ！推進会議

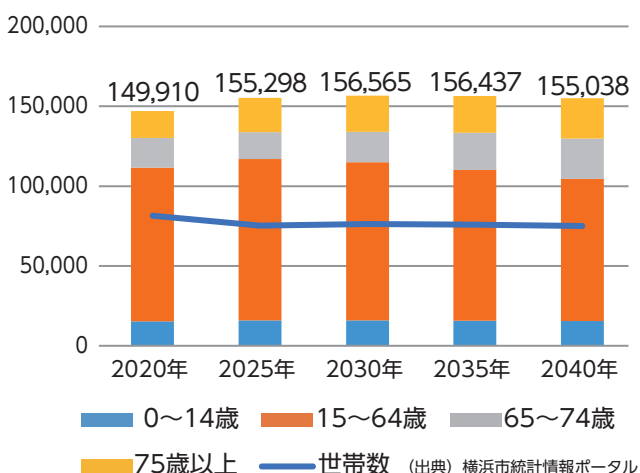
中なかいいネ！推進会議は、13の地区と福祉・保健の関係機関、団体の代表で構成されており、計画の策定や推進するための検討をしています。

#### ご意見

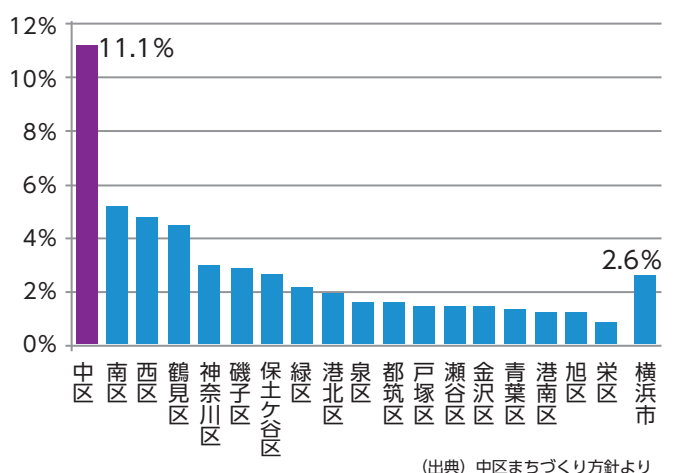
- ・ひとり暮らし高齢者や外国人の増加等により、社会的孤立の課題が増える。
- ・地域とのつながりが希薄で、孤立した子育てをしている人がいる。
- ・共同住宅では近隣の状況を把握することが難しい。
- ・今までの活動で、障害者について考えることが少なかった。
- ・外国人に分かりやすい情報提供をし、一緒に地域づくりをする必要がある。
- ・地域に暮らす生活困窮者や引きこもり等の困難を抱えた人との接点が少ない。
- ・コロナ禍であっても、地域はできることから取り組んでいる。



中区の人口・世帯数の将来推計



外国人人口の割合（区別）（平成30(2018)年12月末）



- ・中区の人口は2030年をピークに減少に転じます。
- ・他区に比べると高齢化のスピードは穏やかですが、地域によって高齢化率に差があることが特徴です。

- ・中区の外国人人口は横浜市全体の17%を占め、18区の中で1位となっており、全国の中でも上位となっています。



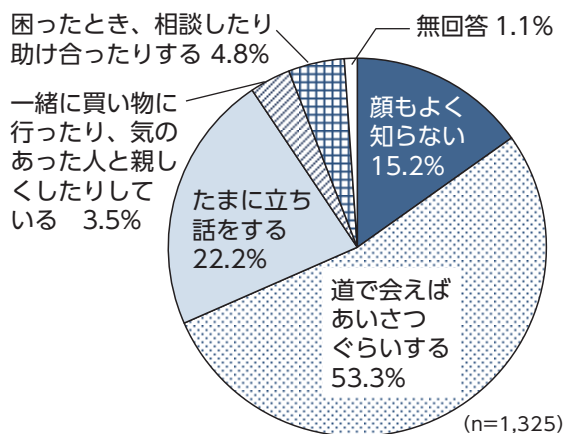
## 2 中区区民意識調査 (実施期間: 令和元年7月～8月)

中区に居住する18歳以上の男女4,000人(うち、外国籍500人)に調査票を記入してもらう形で調査を行い、1,325件の回答がありました。

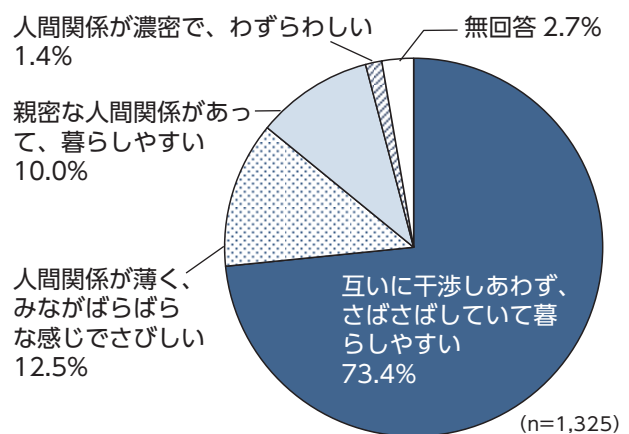
### 結果

- ・「隣近所との普段の付き合い方」については、「道で会えばあいさつぐらいする」が半数以上で、「たまに立ち話をする」が22%、「顔もよく知らない」が15%となっている。
- ・「隣近所との普段の付き合い方をどう思うか」については、「互いに干渉しあわず、さばさばして暮らしやすい」が70%超となっている。

#### 【近所との普段の付き合い方】



#### 【近隣所との普段の付き合い方をどう思うか】



- ・「隣近所の困っている方にどのような手助けができるか」については、「話し相手・相談相手になる」が36%で最も高く、次いで「災害時の安否確認や避難の手助け」が27%、「話を聞いて、民生委員や行政に連絡する」が25%となっている。
- ・「日本人と外国人がともにより良く暮らすために必要だと思うこと」については、「地域のルールを確認し、互いに教え合う」が日本人は50%、外国人は25%となっている。また、「互いの国の文化や生活習慣を知り合う」については、日本人は42%、外国人は61%となっている。

## 3 第4期中区地域福祉保健計画策定に関するグループインタビュー (実施期間: 令和元年11月～12月)

中なかいいネ！に関わった、又は、今後関わることを期待される福祉・保健活動者や団体にグループインタビューを実施しました。(実施回数: 計4回、対象者: 43名)

### ご意見

- ・必要としているサービスや制度がない人が、地域や社会から取り残されているのではないかと。
- ・地域で取り組んでいることは、外国人も同じように困っており、一緒に考えることが必要と。
- ・子育て世帯が近隣との交流がなく、地域とつながれていないのではないかと。
- ・地域の取組を知ってもらい、参加してもらうことで、仲間を増やせると良いと。
- ・困っていないうちから地域と繋がっておくことが大切と。
- ・まちを元気にするための方法について、アイデアを出し合いたい。効果的な活動を教えて欲しいと。



# 3. 第4期中なかいいネ！ ～見守りと健康づくり～

第4期計画を「もっとみんなの『中なかいいネ！』」にするため、地域ではつながりをキーワードに「見守り」と「健康づくり」に取り組みます。また、地域の取組を推進するため、区役所・区社会福祉協議会・地域ケアプラザが中心となり、人財・交流・情報の3つの土台づくりを強化していきます。

## 長期目標

多様性と歴史のある中区らしさを大切にされた地域共生社会の構築

多くの区民が、歴史や文化のあるまち中区に愛着を持っており、中区の大きな財産と考えられます。将来に渡って中区のすばらしさを継承できるよう、そこに暮らす子ども・障害者・高齢者・外国人を含め、住む人・働く人全ての人が安心して生き生きと暮らす地域共生社会を目指しましょう。

## 地域共生社会の構築

### 5年後の目標

もっとみんなの「中なかいいネ！」に～絆を超えて相互理解を進めよう～

中なかいいネ！は区民による区民のためのもの。「もっとみんな」とは、子どもから働き世代・高齢者までの全世代、障害者・外国人等の当事者も含め、全ての人です。そして、住民だけでなく、企業や事業所等の働く人も含め、互いに理解し合うことを目指しましょう。

4期計画 **もっとみんなの中なかいいネ！**

ガンバレ

2 取組

3 地域の取組を推進する3つの土台  
(人財・交流・情報)

地域活動を推進する土台②

情報

1 「対話と学び」でより良い地域づくり

地域活動を推進する土台①

人財

地域活動を推進する土台③

交流

Q

地域共生社会って何？

A

制度や分野ごとの「縦割り」や「支え手」・「受け手」という関係を越えて、地域住民や地域の多様な組織・団体等がつながることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともにつくっていく社会のことです。

## 1 「対話と学び」でより良い地域づくり

「もっとみんなの『中なかいいネ!』」を推進するために、様々な人の気付きを分かち合うことが重要です。

### グループインタビューでのご意見

- ・困りごとを抱える人、助けを求められない人が地域に増えていると感じている。他人事ではなく、みんなが知る必要がある。
- ・まちを元気にするための方法についてアイデアを出し合い、効果的な活動のヒントを得る場が欲しい。
- ・暮らしを支える制度や仕組が複雑だが、効果的に利用するために、みんなで学ぶ必要がある。

そこで、第4期計画では、次のような「対話と学び」の機会を増やしていきます。

- ・一人ひとりが生活の困りごとに気付く学び
- ・生活の困りごとを様々な人と共有する対話
- ・解決に向けた工夫や対応を考える学びと対話
- ・仲間を増やしてつながりを広げる対話
- ・お互いの良さに気付いて頼むことができる対話

より良い地域づくりのために、みんなの想いを共有し、意見を出し合いましょう。また、変化する社会の今を知り、私たちの活動のヒントを得る学び合う場を作っていきましょう。

## 2 取組

### 地域でできる“つながり”の取組を進めます

#### 柱1 ● 見守り力を高める **えん結び**

お互いに関心を持ち、みんなで暮らしの困りごとの解決に取り組みましょう。

例えばこんな“もっとみんなの”

- ・住む人、働く人も一緒に世代を越えて取り組みましょう。
- ・お近くの知り合いを増やしましょう。
- ・「お互いさま」の身近な助け合いを増やしましょう。

これを見て地域活動に参加する人が増えました

〈取組例〉地域活動を伝えるイベントカレンダー



#### 柱2 ● 健康づくりの **元気いっぱい**

みんなで、こころ・からだの健康づくりに取り組みましょう。

例えばこんな“もっとみんなの”

- ・年齢、健康状態、障害の有無に関わらず、可能な範囲で行いましょう。
- ・周囲の人の健康を気遣って、声を掛け合いましょう。
- ・空いている時間で簡単にできる工夫をしましょう。

〈取組例〉子どもも大人も参加するラジオ体操





### 3 地域の取組を推進する3つの土台(人財・交流・情報)

地域の助け合いにより、**えん結び**と**元気いっぱい**の取組を進めていただいている中で、次のご意見をいただいています。第4期計画では、その解決に向け、次の3つの土台を強化していきます。

## 人財

#### 第3期計画 でのご意見

- ・限られた担い手で活動を支えており、負担が大きい。
- ・現役世代や子どもの活動が少なく、参加する意義が若い世代に共有されにくい。
- ・活動の多様化や増加により、担い手が不足。
- ・企業や事業所とのつながりが少ない。中区に根付いている企業と連携したい。

#### 第4期計画 では土台を 強化します

#### 仲間を増やす“人財”

#### 困りごとの解決に向けて、協働する人財を育成・発掘する

- ・地域活動に参加したことがない働き世代等に向けて、地域参加のきっかけづくりを行います。
- ・地域で活動している人のスキルアップとして、異なる分野の活動者との交流の機会をつくりま

## 交流

- ・地域活動や行事の参加者が減少している。
- ・限られた人の居場所となっており、気軽に誰もが参加できる身近な居場所が少ない。
- ・気軽に参加できる健康づくりの場がない。
- ・障害児者との交流が少ない。



#### “交流”することで気付く

#### 周りの人に関心を持ち、他の団体の活動主旨や困りごとに気付く

- ・住んでいる地域のことを理解し、困りごとの解決に向けて住民同士で話し合うことができる機会をつくりま
- ・障害者や外国人等と一緒に地域参画ができるよう相互理解を進めるとともに、きっかけづくりを行います。
- ・企業や事業所が地域住民と連携して地域活動に取り組みめるよう、知り合う機会づくりや協力を求めています。

## 情報

- ・周知の対象が限られており、必要な人に必要な情報が届かない。
- ・地域活動に参加していない人に情報が伝わらない。
- ・地域関係者と福祉・保健・医療関係者、市民活動者、企業等と情報共有が必要である。

#### 動機づけとなる“情報”

#### 暮らし続けるためにそのまちのことを知る

- ・住民が住んでいる地域の情報を得ることにより、地域や地域活動に関心を持てるよう、HP・SNS・マリンFM等の新しい情報媒体を活用していきます。

地域の**えん結び**と**元気いっぱい**の取組をより進めやすくするために、区役所・区社会福祉協議会・地域ケアプラザが中心となり、地域の組織・団体や企業、事業所等と協働し、3つの土台を強化していきます。